

## 1. ディスカッションテーマについて

以下の2つのテーマについてディスカッションが行われた。ディスカッションされた内容を踏まえ私の意見を以下に述べる。

### 1-1. テーマ1「学会の国際化」

放射線技術学会において国際化を進めるべく英語論文誌(RPT 誌)の発刊、国際学会の開催(ICRST)等が進められている。この現状について、私個人の意見としては賛成の立場である。なぜならば私は日本の発表、研究は決して低いレベルにはないと考えており、これを世界に向けて発信するためには学会の国際化が必要であろうと考えるからである。しかし、学会としての国際化到達目標が不明である点が問題視されるべきである。特に学会演題発表においては英語発表が推奨となったが、この国際化のレベルをどこまで要求するか。例えば、10年間で50パーセントの演題を英語発表とする等、具体的な到達目標を学会員に周知させることが必要と考える。また一番危惧されることは英語発表に移行することによって、学会員に演題発表における敬遠が生じることであるため、日本語発表については一部残す体制をとることが望ましいのではないかとと思われる。また、英語発表移行期においては英語の抄録、発表については添削、支援を全面的に学会より支援するという形で学会全体の底上げを行うことが望ましいと考える。もちろん、国際化の意味が英語発表だけを指すものではない。重要なのは国際交流である。本スタンフォード大学海外研修派遣をはじめとする支援も続けられることが望ましい。

### 1-2. テーマ2「私たちが目指すべき学会」

1-1で述べたように、学会の国際化は進めるべきである。例えば優秀演題については国際学会発表へ推挙するという形で、学会としてフォローする体制を敷くというのも良いのではないかと考える。具体的には、英語抄録、発表スライドあるいはポスターの添削、支援である。また、質の高い演題をシンポジウムに推挙し、演題発表時間では伝えきれない内容を十分盛り込み、シンポジストとして話してもらおうというのも良いと考える。「研究のための教育」の充実を図ることも重要である。これらは学士、修士、博士課程といった学校教育で学ぶべきかもしれないが、学会全体の底上げを考えると学会誌や教育講演等に盛り込むのも良いと思われる。学会の底上げという意味では、更なる教育セミナーの充実が望ましい。例えば、e-learningの採用である。e-learningの利点として繰り返し学ぶことが出来る点が挙げられるが、モーニングセミナーや特別講演をe-learningを通じて学ぶという形があると、私個人としても大変有難く思う。

## 2. 今回の研修で学んだことについて

今回スタンフォード大学研修派遣に応募した理由は、スタンフォード大学で最先端の医療・研究を見たい、肌で感じてみたいと思ったからである。百聞は一見にしかずという言葉どおり、実際に現地に赴き得たことはとても大きかった。臨床でのSingle photon 検査についての講義、見学がなかったのは少々残念ではあったが、PET/CTについての講義、ラボ見学は大変興味深かった。今後の医療で最も重要となるキーワードのひとつとして「personalization of therapy」が挙げられるが、その治療に大きく貢献しうるのがmetabolic imagingであるPET検査であるという講義を拝聴した時、まさにその通りであると感じた。人それぞれで同じ悪性腫瘍細胞でも分化度等により性質が異なる。そのために、同じ治療を施しても人によって奏効の度合いが異なることは周知のことであるが、その人にあった治療(personalized medicine)を実現するのがPET検査であると思うからである。形態的情報である腫瘍サイズの変化を待たなくとも、tumor signalを客観的にとらえ、tumor signalに応じ治療を変更し得る手法のひとつとしてPET検査が今まで以上に重要な位置を占めることになるであろうと、この講義を拝聴して深く思った次第である。また、同様に強く興味をひかれたのは、超音波 ablation として使用されるHiFU(High Intensity Focused Ultrasound)の脳への応用の可能性についてである。Tumor surgery はもちろんのこと、脳への刺激として用いるという考えは大変興味深かった。本研修で得られたものは、スタンフォード大学での最先端の医療、研究を見られたという貴重な経験と、さらに重要なものとして挙げておきたいのは研修で出会った仲間である。様々な分野で活躍している仲間には大変刺激を受け、その存在は研修が修了した現在においても「自分も頑張ろう」と思わせてくれる強力なカンフル剤である。本研修で得たことを患者様へ還元し、今後の研究に活かしたい。



Photo モズレー先生とクイズ大会でゲットした帽子(サイン入り)とともに